

# キラッと輝く合志人

## 笑顔を求め

### 空中を舞うちよんかけごま

元肥後ちよんかけごま保存会 名人

中村 一和さん(杉並巨)



手のひらでくるくるとこまが回ります



1



2



3

①こま回しに挑戦する子どもたち ②さまざまな種類や大きさのこまを手作り  
③中村さんの技でこまが宙を駆けまです

「さあ、回れ回れ」という中村さんの声が響く。それに合わせ子どもたちが回すのは、熊本の伝承文化でもある「ちよんかけごま」。地面ではなく、紐を使い空中で回すこまだ。中村さんは一人一人に丁寧にコツを教える。子どもたちも夢中になって何度も挑戦。上手に回せると、みんなが笑顔になり拍手が沸き起こる。「明るく楽しい気持ちになつてもらいたい」という、中村さんの思いが形になる瞬間だ。

20年以上前、職場の仲間がやっているのを見て始めたちよんかけごま。「回すのが楽しそうに羨ましくて。でも最初は全然思い通りに回らなくてね。悔しくてがむしやらになりました」

最初の1年は1日5時間、毎日欠かさず練習した。「回していると意外と体力を使うんですよ。熱中すると、どんなスポーツより息ががりました」

コツコツと腕を磨き、今ではまるで生きているように自在にこまを操る。年に20回程度、高

齢者施設や保育園でこま回しを披露したり、教えたりしている。

「旭日昇る東に、噴煙なびく大阿蘇と、西に霊峰金峰山。朝な夕なに仰ぎ見る、ここは火の国肥後の国。1掛け2掛けちよん掛けて、掛けて回せば火の国の、肥後もつこすの血がたぎる。火の国男のちよんかけを、今日はゆるりと見てはいよ」と、熊本の魅力を語る口上に乗せて、さまざまな技を練り出す姿に観客は魅了される。使うこまは全て中村さんが木材を削って手作り。「軸がぶれないよう木の年輪に合わせて重りが入れているんです」。ちよんかけごま以外にも、ひねりこまや投げこまなどさまざまなこまを楽しんでもらえるよう準備している。

ちよんかけごまが伝承されていくようお願いを込め、観客に語る。「皆さんもこまを回してみたいなと思つたら呼んでください。私がいっつも駆け付けます」火の国男のちよんかけは、いつまでも回り続ける。

あなたの周りにはキラッと輝く合志人を紹介してください。たくさんの紹介をお待ちしています。

あなたの周りの合志人を探しています  
企画課 企画広報班(合志庁舎) ☎248-1813

## 和顔愛語



「新年あけましておめでとうございませう。ことし最初の表紙は相撲。昨年7月号の和顔愛語にも登場した私のひいおじいちゃん、毎日必ずテレビで相撲を見ていました。存命だったら合志場所をきつと喜んだらうな。私も初めて生で相撲を見ました。」

P8ではふるさと大使谷山さんを紹介。試合中は気迫溢れていますが、普段はとっても気さくで明るい人です。こちらの取材ではボクシングも初めて生観戦しました。取材では初めて知ること、見ることで知らず。ことしもいろいろ「初めて」と出会えますように。

小山

「できる人が、できる時に、できることをする」のがボランティアの基本だと言われています。しかし、長年続けるには相当な意志と覚悟が必要でしょう。また、「担い手が足りない」二タダで使えらると思われて感謝の言葉もないなどの声も聞かれます。無償で地域に貢献する皆さんへ敬意を持ちつつ、自分自身もできるだけのことをする。少子高齢化・人口減少社会へ上手に対応するヒントは、この辺にあるような気がします。

高野

## 人の動き

人口……62,159 (+ 55)  
世帯……24,376 (+ 49)

出生…53 (- 2) 転入…211 (+31)  
死亡…52 (- 3) 転出…157 (-40)

※11月末現在( )内は前月比

